

【学校教育目標】

『21世紀をたくましく生き抜いていける子ども』



コロナ禍の学校生活が3年目に入りました。不透明な時代という言葉聞くようになってから久しい気がしますが、まさに今、コロナに限らず時代は不透明そのものと言えます。

本校に着任することがわかった時から、上記の学校教育目標について考えていました。勝田台小学校創立当時に大事にされていた「たくましさ」という言葉を、時代の趨勢にあった感覚で自分なりに解釈し、次の2点としました。

『たくましさ』

- 友だちと手を取り合い、周囲を巻き込み、他者の笑顔を自分の喜びとすることができる力
- コミュニケーションをとり、折り合いをつけながら、自身や集団の最適解を求めていく力

忍耐というイメージではなく「しなやかな力強さ」と捉えています。その心の在り方や振る舞い、生き方は、八千代市が推進するESD教育の根幹をなすものと考えています。それを子どもたちの最前線で指導し、体現しようと挑戦するすべての教職員・スタッフの背骨となる言葉として『愛は勝(つ)』を定めました。

4月に着任しました木梨朋幸です。教育愛を注ぎ続ける学校づくりを目指していきます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。